

6、三春の名木・保存木をたずねて

(1) 三春滝桜^{たきざくら}

新町の坂をのぼり、^{けん}県道（^{どう}飯野・^{いいの}三春・^{みはる}栃本線^{とちもとせん}）を5 kmほど行くと滝地内に出る。曲がった坂をのぼりきると、道路の右手前方に桜の巨木^{きよぼく}を見ることができる。これが



春の滝桜

三春滝桜で日本三大桜の一つといわれている。

大正11年(1922年)に国の天然記念物の指定^{してい}を受けたこの巨木は、高さ約19m、幹のまわり約9.5m、枝の広がり^{してい}は東西約22m、南北約17m、樹齡^{じゅれい}は1000年とも1200年ともいわれている。

滝桜は、ベニシダレザクラでエドヒガンザクラと同じよう



夏の滝桜

に寿命^{じゅみょう}の長い桜である。それにしてもこれまで長生きできたのは、桜久保^{さくらくぼ}というくぼ地^{くぼ}にあって強風をさけることができ、日だまりの中で周りの畑の養分